



2022年8月15日

各位

会社名 第一屋製パン株式会社
代表者名 代表取締役社長 細貝 正統
(コード：2215 東証スタンダード市場)
問い合わせ先 執行役員コーポレート本部長
矢野 邦彦
(TEL：042-344-7601)

通期業績予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ

当社は、2022年12月期（2022年1月1日～2022年12月31日）において、下記のとおり特別損失を計上するとともに、最近の業績動向等を踏まえ、2022年2月18日に公表しました2022年12月期（2022年1月1日～2022年12月31日）の通期の業績予想を、下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 2022年12月期通期連結業績予想数値の修正（2022年1月1日～2022年12月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	23,800	△500	△410	△450	△64.99
今回修正予想（B）	23,800	△500	△410	△899	△129.85
増減額（B－A）	－	－	－	△449	
増減率（％）	－	－	－	－	
（ご参考）前期実績 （2021年12月期）	23,864	△633	△523	△739	△106.83

（注）「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日）等を当連結会計年度の期首より適用しております。前期実績につきましては、当該会計基準等適用前の数値となります。

2. 修正の理由

2022年12月期の連結会計年度末におきまして、投資有価証券売却益700百万円（売却益703百万円、売却損3百万円）と、関東生産拠点の集約に伴う特別損失を計上することに伴い、親会社株主に帰属する当期純利益が前回の業績予想を下回ることとなったため、通期の業績予想の修正を行うこととなりました。

3. 特別損失の発生及びその理由

当社グループは、収益の改善を目指し、事業構造改革の一環として、2022年5月30日付で「関東生産拠点の集約及びそれに伴う特別損失の発生に関するお知らせ」を開示した通り、横浜工場の生産を関東の他の3工場（小平、金町、高崎）に集約し、横浜工場については工場閉鎖し、横浜工場の跡地について有効活用することと致しました。これに伴い、当第2四半期において、事業構造再構築に伴い発生す

る費用を合理的に見積り、特別損失に事業構造改善費用1,149百万円を計上しています。

当該費用は現時点で入手可能な情報や予測等に基づく合理的な見積額として算定しております。

4. 今後の見通し

上記拠点集約に伴う特別損失により、2022年12月期業績予想は、前述のとおり経常損失410百万円、親会社株主に帰属する当期純損失899百万円と見通しておりますが、2023年度以降は拠点集約による生産性向上、キャラクター商品・新領域ジャンルの商品の売上伸長、横浜工場跡地の有効活用等により、早期の通期黒字化を目指してまいります。

以 上